

ILSI Japan 活動報告<2023>

食品安全研究会

【食品リスク研究部会】

活動ビジョン・ゴール	年度目標
食品の安全性評価の考え方を学び、その普及に努める。	① 食品リスク研究に関する勉強会を 3 回以上開催し、情報発信する。 ② 「ナチュラルミステイク」の情報発信。

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p>① 2022 年度勉強会の内容について、「イルシー」誌<フラッシュ・レポート>の原稿を作成した。</p> <p>2/9 (木)勉強会「リスクコミュニケーションにおけるメディアとサイエンス」講師：早稲田大学 田中 幹人 教授を Zoom で開催した。参加者 40 名。</p> <p>2/9(木)に Zoom で部会を開き、勉強会 WG の募集を行った。</p> <p>2023 年後半より、勉強会を開催できるようにしたい。</p> <p>② 「ナチュラルミステイク」をジャーナリストや食品リスク研究者への献本を実施した。</p>	<p>① 2/9 の勉強会についても「イルシー」誌<フラッシュ・レポート>を作成する。</p> <p>勉強会 WG のキックオフミーティングを開催し、スケジュール、テーマを決定していく。</p> <p>② 引き続き、献本を行うとともに、アンケートを実施し、先生方からの情報発信を促す。</p>	<p>・ 早稲田大学</p>
3, 4 月	<p>① 2023 年度の勉強会について WG を組み、オンライン MTG を 2 回開催し、スケジュール、テーマ、講師の案を作成した。</p> <p>② 「ナチュラルミステイク」につき、ジャーナリストや食品リスク研究者への献本を実施した。</p>	<p>① 講師の方々と調整し、勉強会のスケジュールを決定していく。</p> <p>② 献本先の先生方にアンケートを実施し、情報発信につながったかを確認する。</p>	
5, 6 月	<p>5 月 25 日 (木) に部会を Zoom で開催した。</p> <p>① 2023 年度の勉強会についてオンラインで WG-MTG を 1 回開催し、スケジュール、テーマ、講師の進捗を確認した。</p> <p>② 「ナチュラルミステイク」を献本したジャーナリストや食品リ</p>	<p>① 講師の方々と調整し、勉強会のスケジュールを決定していく。8 月 9 日 (水) 「フードテック (昆虫・培養細胞食品) の安全性の考え方」を、9 月 29 日 (金) 「微生物や微生物を用いた食品の安全性」の勉強会開催を調整</p>	

	<p>スク研究者にアンケートを実施した。</p>	<p>している。</p> <p>② 献本先の先生方に実施したアンケートを集計し、情報発信につながったかを確認する。</p>	
7, 8月	<p>9月6日(水)に部会をWeb開催した。</p> <p>① 8月9日に昭和女子大学近藤一成先生を講師に「フードテックの安全性の考え方」について勉強会をWeb開催し、43名の参加があった。</p> <p>② 「ナチュラルミステイク」献本先の先生からのアンケート回答を確認した。内容に関しては全ての方にご賛同いただいた。</p>	<p>① 第2回勉強会は9月29日に琉球大学の水谷先生を講師に「微生物や微生物を用いた食品の安全性」についてWeb開催予定。第3回については11~12月で日程調整中。</p> <p>② 更なる情報発信のため、アンケートで得られた意見をもとに検討を行う。</p>	
9, 10月	<p>① 第2回勉強会は9月29日に琉球大学の水谷先生を講師に「微生物や微生物を用いた食品の安全性」についてWeb開催。参加者50名。</p> <p>② アンケート結果を参考に更なる情報発信の方法の検討継続。</p>	<p>① 第3回勉強会を11月13日に東北大学名誉教授の山添先生を講師に「安全性評価における薬物相互作用の考え方」でハイブリッド開催予定。</p> <p>② アンケート結果を参考に更なる情報発信の方法の検討継続。</p>	
11, 12月	<p>① 第3回勉強会を11月13日に東北大学名誉教授の山添先生を講師に「安全性評価における薬物相互作用の考え方」でハイブリッド開催(参加者:23名)</p> <p>② アンケート結果を参考に更なる情報発信の方法の検討継続。</p>	<p>① 2024年も勉強会を開催すべく、候補トピックスと演者の検討を実施する。</p> <p>② アンケート結果を参考に更なる情報発信の方法の検討継続。</p>	